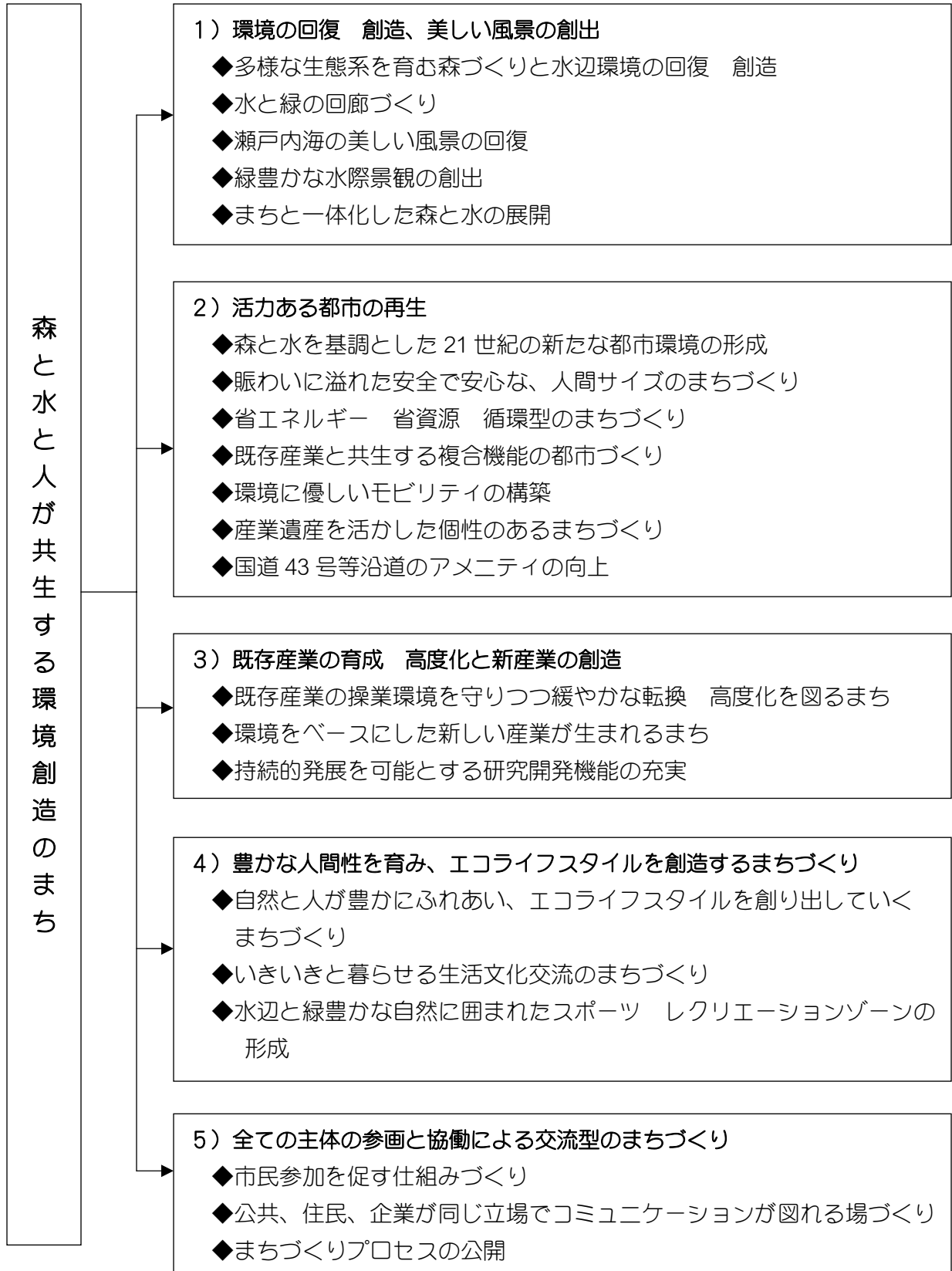


## 第4章 まちづくりの展開方向

尼崎臨海地域が、「森と水と人が共生する環境創造のまち」に生まれ変わるために、森づくりを核としながら進めるまちづくりの展開方向は次のとおりとする。



#### 4.1 環境の回復 創造、美しい風景の創出

尼崎臨海地域は、市街地状況や地形状況からみて、国道43号以南の運河水路が張り巡らされ工場が立地している地域と、阪神高速湾岸線以南の海に伸びる半島状の地域に2分される。そのことを踏まえた尼崎21世紀の森の基本ゾーニングは次のとおりとする。

##### (1) 尼崎21世紀の森の基本ゾーニング

尼崎21世紀の森における基本ゾーニング

#### 都市の森 ~ アメニティを高め、人が交わり、産業を育む森

まちと一体的に結びついて、自然とのふれあいや休養 憩い 散策、スポーツやレクリエーション、交流や多様なアクティビティが生まれる安全で安心な人間活動のための空間を中心とする。

##### 沿道のアメニティを高める森

国道43号等の両側に「沿道のアメニティを高める森」を配置する。この森は、環境保全機能を高めるとともに、広域防災帯としての機能を担う。また、尼崎臨海地域と国道43号以北のまちを結びつけるアメニティ空間として展開する。

##### 人が交わる森

蓬川以西地域は人口集積があり、工場の遊休地化によるリサーチコアや緑地への転換が進んでおり、産業と共生しつつ土地利用転換を目指している地域である。

この地域は産業と調和した「人が交わる森」と位置づけ、住み、働き、学び、憩い、遊ぶことができる複合都市機能を備え、運河水路を軸として森と水が一体となった環境を備えたまちを展開する。

このまちは、来訪者や市民の交流 文化 スポーツ レクリエーション等の活動の場となる森を中心に構成する。

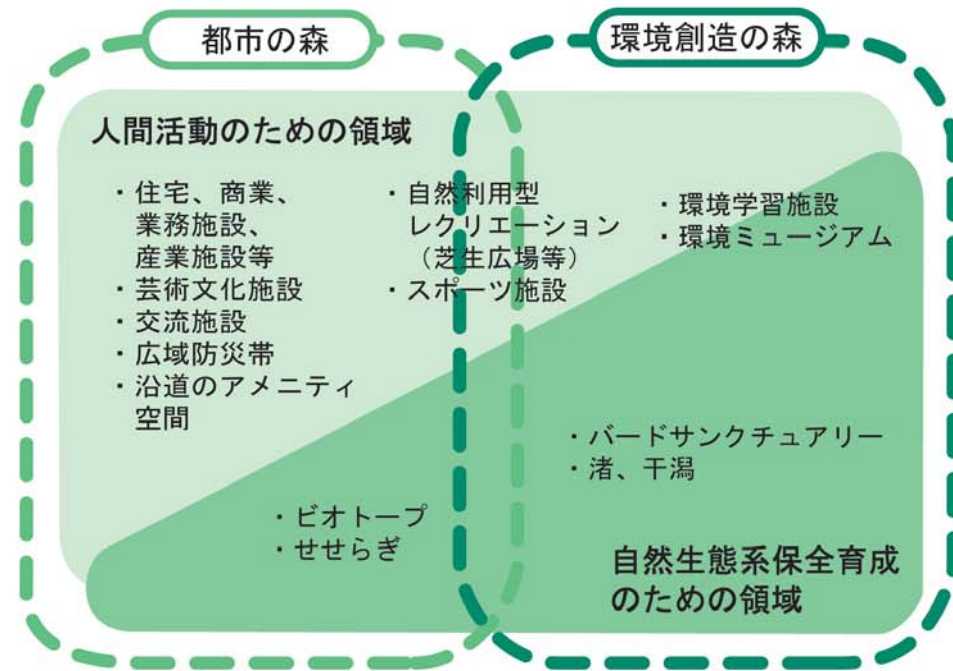
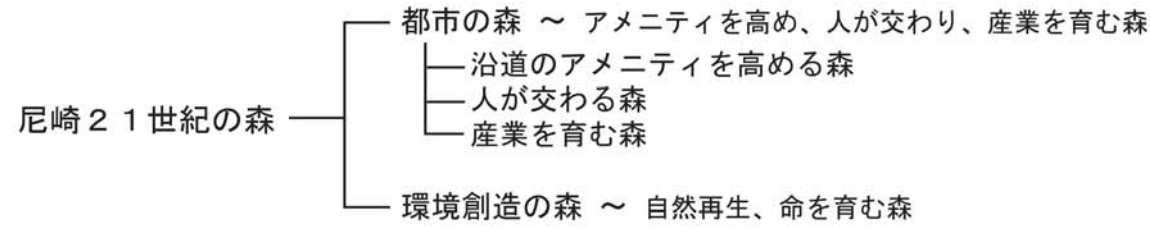
##### 産業を育む森

蓬川以東地域は大規模工業用地の集積する地区であり、良好な生産環境を保全しつつ既存産業の高度化を図る「産業を育む森」と位置づけ、運河水路沿いを中心に工場緑化を推進し、森に囲まれた産業のまちを展開する。

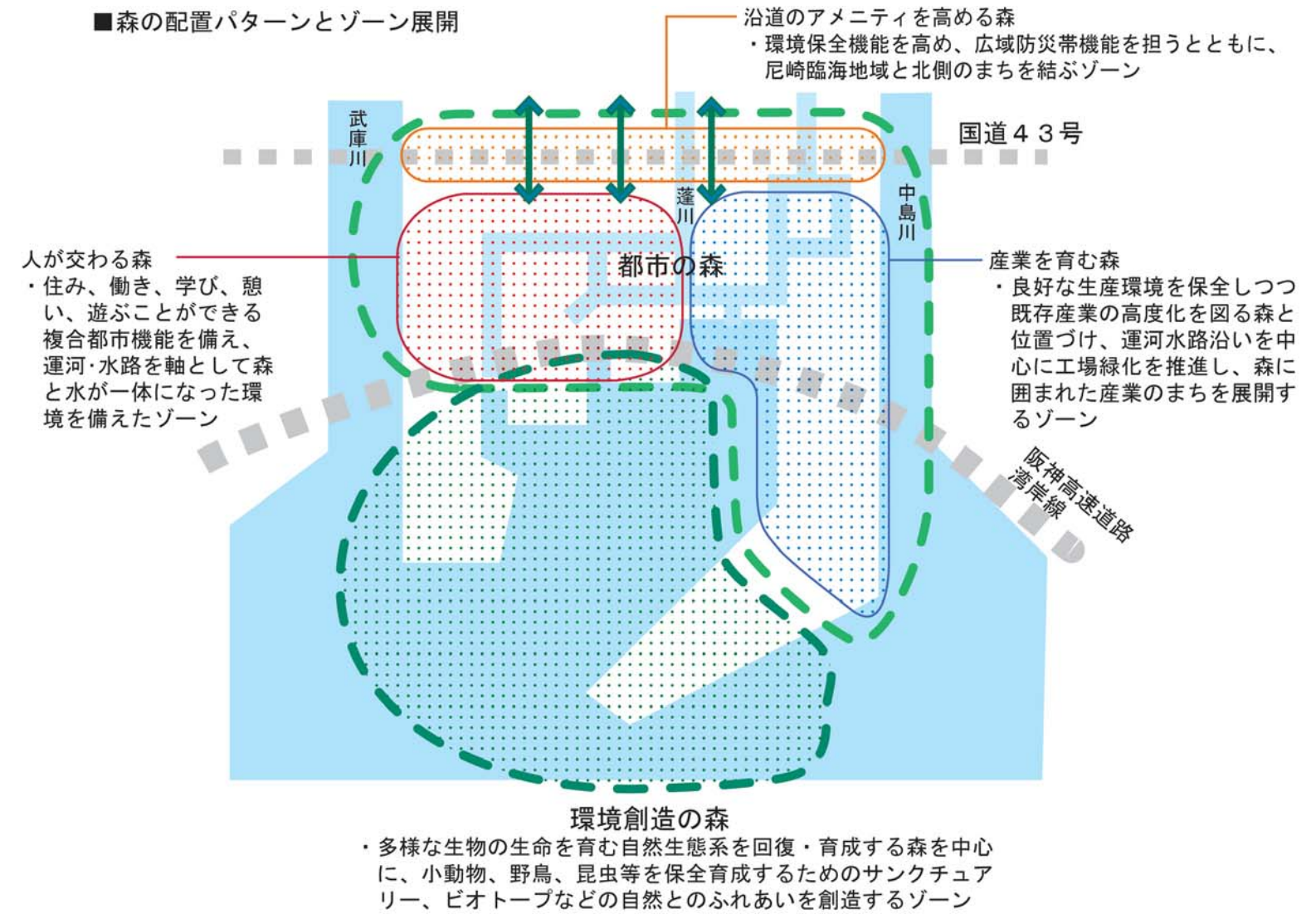
#### 環境創造の森 ~ 自然再生、命を育む森

多様な生物の生命を育む自然生態系を回復 育成する森を中心として、野鳥や昆虫、小動物等を保全育成するための樹林、海辺、池沼等のサンクチュアリーやビオトープ空間、自然とのふれあいのための空間を創造する。

■ 森の考え方



■ 森の配置パターンとゾーン展開



■ 環境創造の森のイメージ



瀬戸内の多島風景



木立の中の遊歩道  
(ハーローニュータウン、イギリス)

■ 都市の森のイメージ



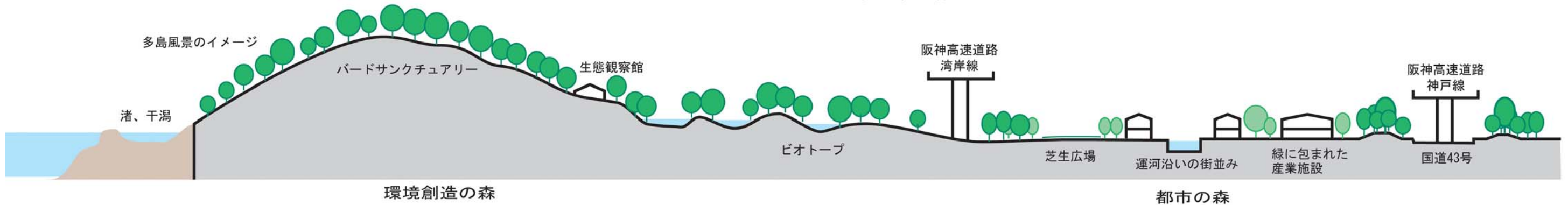
芝生広場  
(NYセントラルパーク)



緑につつまれた産業施設



幹線道路沿いの森



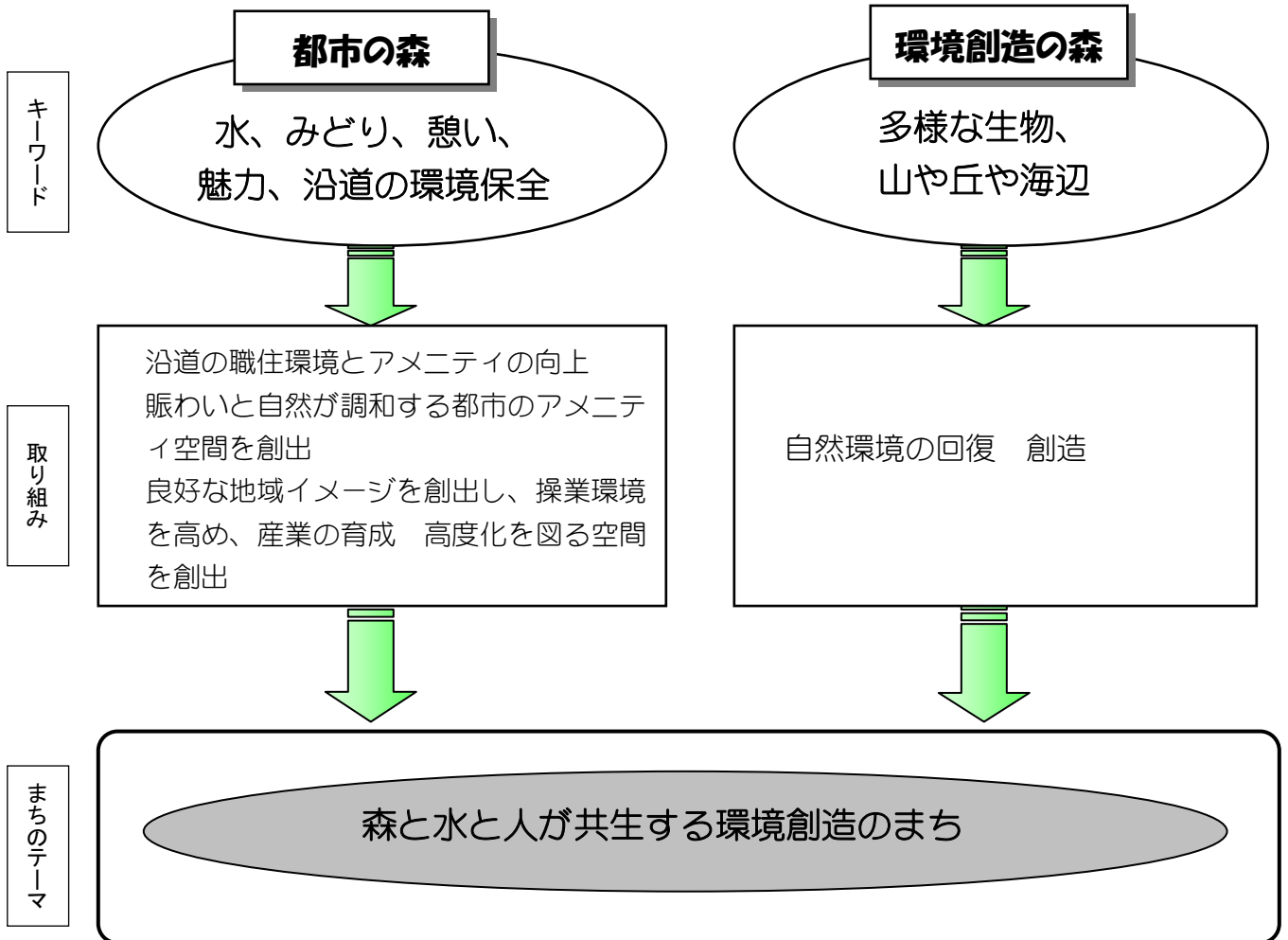
尼崎21世紀の森の構成

(2) 尼崎21世紀の森の空間イメージ

① 基本的考え方

尼崎臨海地域における森の基本ゾーニングとして2つの森を設定したが、各々の森が果たす役割を考慮して、地域全体として緑被率の目標を30%以上確保する。

注：ここでいう緑被率とは、樹木の他に芝、低木等の緑で覆われた個所も含む。



緑豊かな市街地を形成するための、緑の確保目標

**緑被率 30%以上**  
 (地域全体として緑被率の目標を30%以上確保する)

参考：「緑の政策大綱（平成6年7月、建設省）」「緑の基本計画ハンドブック（平成8年3月建設省都市局）」において21世紀の初頭における市街地内の緑地の目標は3割以上としている。

現状（平成9年）の樹木緑被率  
 尼崎市全体：5.86%  
 臨海地域：4%

## ② 21世紀の森の空間イメージ

尼崎臨海地における「尼崎21世紀の森」を構成する2つの森の目指すべき空間イメージは次のとおりとする。

### 21世紀の森の空間イメージ

21世紀の森		森の空間イメージ
都市の森	沿道のアメニティを高める森	沿道のアメニティや環境保全機能を高めるために、国道43号等の両側に「沿道のアメニティを高める森」を配置し、広域防災帯整備と整合を図りつつ形成する。この森の内部には遊歩道などを配置する。 森の一部には、「幹線道路の沿道の整備に関する法律（沿道法）」に基づく制度を活用した緩衝建築物の配置を見込む。
	人が交わる森	運河の両側は、緑豊かなプロムナードとし、これに沿って複合都市機能の建築物を配置し、賑わいと自然が調和する新しい都市のアメニティ空間として再生する。幹線道路についても広幅員のプロムナードを整備し、沿道に建物を配置し、低層部を店舗等とすることで沿道のにぎわいを形成する。 運河と幹線道路によって形成される各街区の中央には、それぞれのシンボルとなる森を配置する。森の中には市民の憩いの場となる広場や文化、スポーツ施設等を配置し、森の中でレクリエーション、交流活動による市民のコミュニティ形成を図る。森の一部には、災害時の避難が可能な防災機能を備えた広場等を配置し、安全なまちづくりを推進する。 それぞれの街区の森は運河や幹線道路を連携する独自の緑のネットワークを形成する。これらが運河や道路沿いの緑地とつながることで、緑を主体に建物、道路、運河が調和する都市環境の形成を図る。
	産業を育む森	運河沿いにグリーンベルトを配置することにより、工場群の環境と美しい水辺環境の共存を図る。 開門を始めとして尼崎産業の歴史を築いてきた産業施設や製造設備、製品等の保存、展示空間をグリーンベルトでネットワークし、フィールドミュージアムとする。 これにより、これまで一般市民が立ち寄ることの無かった工場地帯のイメージを払拭し、産業とその歴史に対する市民の理解を高めるとともに、立地企業にとってもそのイメージが高まるような森の形成を図る。
環境創造の森	臨海部における生態系の回復と創造のため、人工磯等により、森と水が接する環境を豊かに創造し、水際線でのエコロジカルな環境を形成する。 平坦な臨海部の土地に対し、新たに起伏のある造成を行う。また淡水湖を人工的に形成する等、野生小動物の生息に適した環境を形成するとともに、景観的にも海と森との出会う瀬戸内の多島海風景を彷彿させる景観を創造する。 森の内部や水際線には自然観察のための遊歩道や観察施設等を配置し、環境学習の場としての役割を果たす構成とする。	

### (3) 水と緑の回廊づくり

#### ①尼崎臨海地域における水と緑の回廊

「尼崎 21 世紀の森」は、水と緑の回廊により環境創造のまちを構成していく。

#### 【環境創造の森を拠点としたエコロジカルネットワークの形成】

フェニックス事業地を始めとする海に突き出た半島の先端部には、生物生息空間となる丘陵状のまとまった規模の森（コアハビタットおよびサブハビタット）を構成する環境創造の森を配置する。これらの環境創造の森を中心として河川、運河、道路等に沿って内陸部へ森を連続させる。これにより陸上生物の移動の可能性を秘めたコリドーや小規模な緑地でネットワークし、臨海地域全体のエコロジカルネットワークを形成していく。

#### 【森と水による生態的な大回廊の形成—周辺地域との連携】

尼崎 21 世紀の森を拠点として、このエコロジカルネットワークを周辺地域に拡大していき、大都市地域における生態的な大回廊を形成していく。

蓬川、武庫川、中島川沿いに緑が北に伸びて尼崎市街地と結ぶ生態的回廊を形成し、さらに六甲山を始めとする周辺の森と尼崎 21 世紀の森をつなぎ、阪神間一帯におけるエコロジカルな緑の大回廊の形成を目指す。

#### 【沿道のアメニティを高める森による環境保全軸の形成】

沿道環境改善対策が進められている国道 43 号等沿道の両側に沿道のアメニティを高める森を配置し、沿道市街地の環境保全機能を高める。この森は、市域を越えて東西方向に延伸し、阪神地域における東西方向の環境保全軸として形成していく。

#### 【水辺を中心としたネットワークの形成】

河川や運河、湾内の水辺沿いに遊歩道や緑地 オープンスペースを配置し、水辺の豊かな環境形成を図るとともに、この水辺を中心に環境創造の森や人が交わる森 産業を育む森の中に構成される森をネットワークし、環境創造の森の中にあるビオトープと併せて自然環境豊かな都市域を構成するとともに、豊かな森と水の都市景観を創出する。

エコポートモデル事業と連携し尼崎臨海地域を取り囲む垂直護岸を可能な限り親水空間へと改修して森との一体化を図り、緑と水の融合する都市環境を創出する。親水空間は藻場 干潟、砂浜 磯場、潮だまり等で形成され、野鳥 魚 底生生物等の生息 生育空間を創出する。



都市の森：人が交わる森

都市の森：  
沿道のアメニティを高める森

都市の森：産業を育む森

環境創造の森

凡例

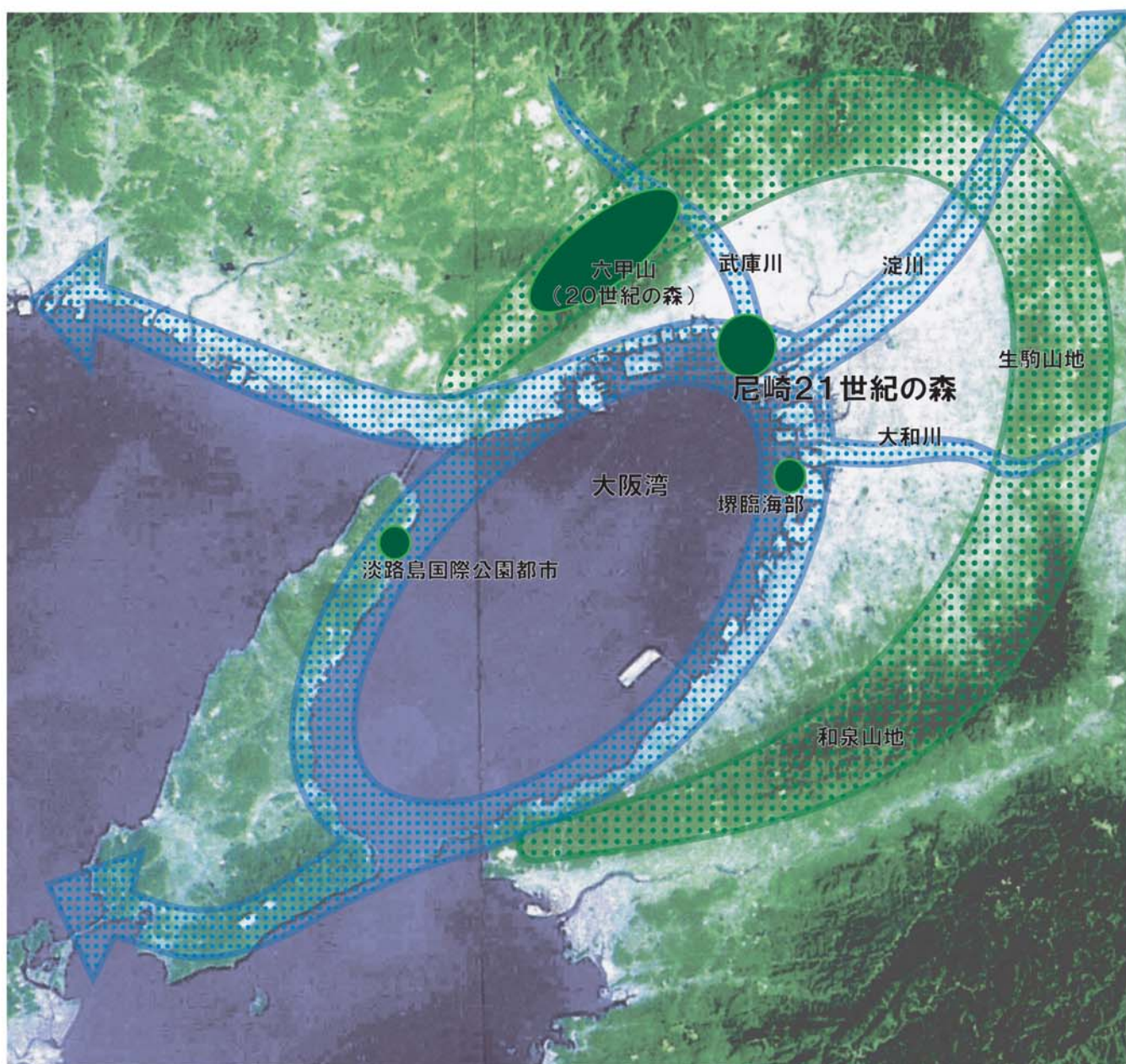
- コアとなる緑
- 緑の回廊

水と緑の回廊

## ② 大阪湾ベイエリアにおける水と緑のネットワーク

- ・大阪湾ベイエリアは、関西における主要な都市軸を形成しており、近年ウォーターフロントの再開発や、低・未利用地を活用した自然回復・創造に向けての取り組みが行われている。
- ・大阪湾ベイエリアは、六甲山系、生駒山地、和泉山地、淡路島等の緑のベルトで囲われている。
- ・尼崎21世紀の森は、大阪湾ベイエリアにおける水と緑のネットワークにおいて、その中心に位置するとともに、大阪湾奥部から瀬戸内海につながる水のネットワークの起点となる。

これらのことから尼崎21世紀の森は、大阪湾ベイエリアの他地域との連携を図りながら、環境の回復・創造に取り組むこととする。





## 4.2 活力ある都市の再生

### (1) 「森と水と人が共生する環境創造のまち」へのアプローチ

「森と水と人が共生する環境創造のまち」を実現させるために、多様な生態系を育む拠点としての森づくりを核として、森が有する様々な環境創造 保全効果に加え、陸域でのまちづくり、水域での水辺づくり、そしてこれらを連携するモビリティを構築する。

まちづくりに関しては、

自立性の高いエネルギー供給

省資源 リサイクル

水循環

微気象緩和 自然との共生

の4つの観点から省エネルギー 省資源 循環型などのキーワードで表現される高水準の環境を創造する。そして、目標を、環境と人が持続的に共生していく「環境共生のまちづくり」とする。

水辺づくりにおいては、「親しみのある良好な水辺の創造」を目標とし、森づくり まちづくりと調和しながら有機的な結びつきをもつ水辺環境の回復 創造を行う。

水辺づくりの基本課題は、

水質浄化、底質環境の改善

生物の生息場の創出、生物多様性の回復

失われた自然景観の回復、創造

良好な生活環境としての水辺の再生

である。環境創造の水辺づくりにおいては、森づくりと連携して水と緑の回廊を形成、緑豊かな水際景観を創出し、瀬戸内海の風景の回復を目指すものとする。さらに、地域特性を活かした独自性 先進性のあるものとして構想していく。

モビリティの構築については、活力のある都市の再生において重要な要素であると同時に、交通機関による環境負荷の低減など、環境の回復 創造にとっても取り組むべき重要な課題である。

したがって、森構想におけるモビリティの構築は、

- ① 環境にやさしい交通システムの導入
- ② 歩行者、自転車のための空間確保
- ③ 水上交通の導入
- ④ 幹線道路網など交通ネットワークの整備

の4つの観点から「環境にやさしいモビリティの構築」を目指すものとする。

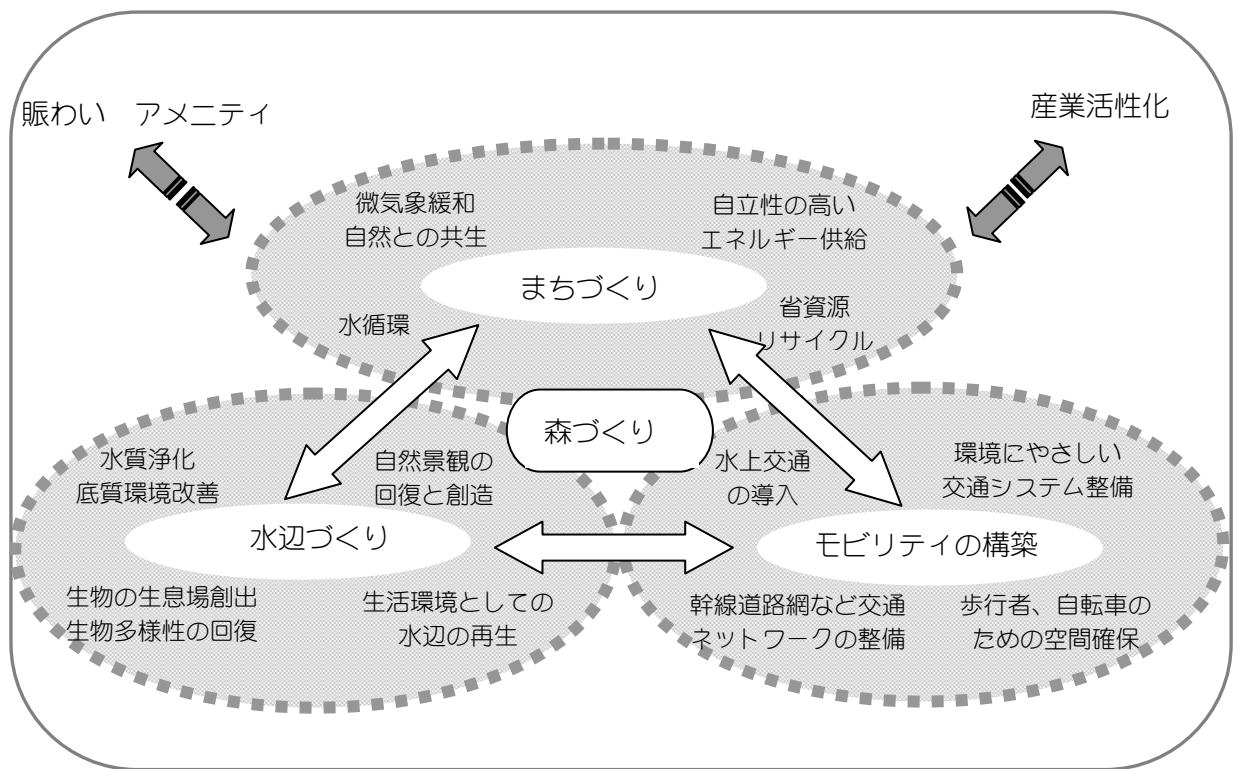


図 尼崎 21 世紀の森構想における環境共生のイメージ

## (2) 環境共生のまちづくり

### 自立性の高いエネルギー供給

自立したエネルギーシステムの確立

エネルギー利用効率の改善、向上

自然エネルギー活用と地域内に賦存する未利用エネルギー活用によるエネルギーの有効利用

エネルギー消費に伴う環境負荷の低減

地域内の施設の建設から廃棄に至るエネルギー消費量の最小化

人、生物にやさしいまちづくりに寄与できるエネルギー消費システムの確立

表：具体的施策の方向性（例）

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>①太陽光発電の導入によるエネルギーの有効利用</li> <li>②バイオマスエネルギーの活用によるエネルギーの有効利用</li> <li>③下水、河川水等水熱エネルギー活用地域熱供給システムの導入</li> <li>④廃棄物発電によるエネルギーの有効利用</li> <li>⑤工場排熱活用熱供給システム整備によるエネルギーの有効利用</li> </ul> |
|--|

### 省資源・リサイクル

資源の利用効率を高める方策の展開

施設の建設から廃棄に至る資源消費量の最小化

発生するごみの減量と資源のリサイクル

表：具体的施策の方向性（例）

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>①分別収集・輸送システムの整備</li><li>②再資源化施設・システムの整備による省資源・リサイクルの推進</li><li>③バイオマスエネルギー回収システムの整備によるごみ・汚物の資源化</li><li>④再生資源・エネルギーの需給システムの整備<br/>(バイオガス、バイオ燃料、コンポスト等)</li></ul> |
|--|

## 水循環

可能な限り水資源に対して自立したまちづくり

雨水利用システムや下水処理水等の再利用システムの導入による、水資源の有効かつ合理的な利用

雨水の貯留や浸透による地下水の涵養と雨天時の表面流出抑制

(表面流出抑制によって治水安全度の向上、水域の水質保全を図る)

下水処理の高度化や水辺の水質浄化推進による、沿岸域、河川、運河の水質、生態系の保全回復

雨水、下水再生水等の活用や水域の浄化による、生活に潤いのある水辺空間の創出

表：具体的施策の方向性（例）

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>①雨水貯留・浸透・浄化施設の整備による面源負荷の削減、地下水の涵養、都市型洪水の抑制（透水性舗装含む）</li><li>②下水処理水再利用による水資源の有効活用</li><li>③固形物回収施設設置によるバイオマスエネルギーの有効活用</li><li>⑤下水高度処理による水環境の改善、生物生息環境の保全・創出</li><li>⑥河川、運河等の浄化による良好な親水空間の創出、生物生息環境の保全・創出</li><li>⑦森整備による面源負荷の削減、地下水の涵養、都市型洪水の抑制</li></ul> |
|---|

## 気象緩和・自然との共生

水辺空間と森の効果および土地利用の工夫によるヒートアイランド現象の抑制等、微気象の緩和

森の有する大気汚染物質吸収能、CO<sub>2</sub>固定能による大気環境の改善

森の整備や水域の回復 保全等による多様な生態系の回復 維持および自然と人間の共生

水と緑のある美しい水際景観の創出、および地域全体の緑化推進による良好な景観創出

人間と自然との共生の確保を目的とした、環境学習を行える施設の整備

表：具体的施策の方向性（例）

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>①森の整備等緑化推進による微気象の緩和・大気環境の改善</li><li>②森の整備等緑化推進による生物生息場所の確保</li><li>③都市公園の整備による憩いの場の確保</li><li>④森整備による良好な景観の創出</li><li>⑤環境ミュージアムや自然体験の森(環境学習フィールド、エコロジーキャンプ場)等の自然体験・学習の場の提供</li></ul> |
|--|

## (3) 親しみのある良好な水辺の創造

### 水質浄化、底質環境の改善

汚濁成分の水域への負荷抑制

水域の停滞解消による、移流循環機能の改善

水域の底泥からの内部負荷の削減

表：具体的施策の方向性（例）

運河 河川水域	流入抑制	①森づくりに伴う面源負荷の低減、まちづくりにおける水循環システム等の整備によって水域への汚濁負荷流入を抑制
	水底の改修	②底泥の浚渫、覆砂による内部負荷削減
港湾水域	流動促進	①港湾内の底層水の上下混合による水質改善

### 生物の生息場の創出、生物の多様性の回復

対象域内に多様な生物生息空間を創出

多様な生物による自然浄化力の強化

表：具体的施策の方向性（例）

運河 河川水域	水底の改修	①底泥の浚渫、覆砂により底生動物や微生物の生息を促し、底質の浄化機能を改善
	護岸改修	②自然石による緩傾斜護岸とし、フジツボやアオサの生育域を拡大
港湾水域	渚の創出	①二枚貝、フジツボ、多毛類等の動物やアオサ類などの海藻といった多様な生物の生育を促す干潟、ラグーン、磯場、潮だまりの設置 ②自然石を用いた透過性護岸を渚の外周に設置し、礫間に付着した生物膜により浄化を促進
陸域	公園の水辺	①せせらぎ、池および水生植物園を設け、ビオトープ空間を創出

### 失われた自然景観の回復、創造

自然の回復 創造による景観の改善

陸部から水際部周辺の空間において、場に適した緑化による森からの連続性の創出

表：具体的施策の方向性（例）

運河 河川水域	水底の改修	①底泥の浚渫、覆砂により底生動物等の生息を促し底質の浄化機能を改善
港湾水域	護岸改修	①物流機能のないコンクリート製の垂直護岸部を、環境改善型の護岸構造に改修
	渚の創出	②緩傾斜護岸化の改修が可能な海岸部周辺で、比較的水深の浅い所には、磯場、干潟、ラグーン、潮だまりなどの渚の風景を創出

### 良好な生活環境としての水辺の再生

多様な親水空間の創出

実体験型の環境教育、学習の場の提供

水遊びやカヌーなど水辺のスポーツが可能な場の提供

表：具体的施策の方向性（例）

運河 河川水域、港湾水域	護岸改修	①水際部へのアプローチを可能とする緩傾斜構造への改修
港湾水域	渚の創出	①干潟、ラグーン、磯場、潮だまり等、安らぎと憩いの場の創出
陸域	公園の水辺	①せせらぎ、池、水生植物園等、安らぎや憩いと環境教育の場の創出

## (4) 環境に優しいモビリティの構築

### 環境にやさしい交通システムの導入

自動車排気ガスの低減などを目指し、L R Tなど低公害型の交通手段の利用を促進

エネルギー効率のよい低燃費交通手段の利用を奨励

環境負荷の低減を図るべく公共交通の利用を促進する交通ネットワークの整備とソフト施策の充実

表：具体的施策の方向性（例）

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>① L R T、電気バス等の低燃費、低公害型の公共交通機関の導入</li><li>② I T Sを利用した公共交通の利便性の向上（P T P S[公共車両優先システム]、ダイヤモンドバス等）</li></ul> |
|---|

### 歩行者、自転車のための空間確保

安全かつ快適なモビリティの提供

（車道を中心とした現在の道路構造や利用方法の考え方から転換し、歩行者のための空間、自転車のための空間、そして自動車のための空間等をそれぞれ独立に位置付けるとともに、これらが互いに調和した道路空間を構築する）

臨海地域に、鉄道駅や内陸部の市街地と結ぶ歩行者系空間の整備

平坦な地域特性を活かし自転車が走りやすいまちとするための施設整備

表：具体的施策の方向性（例）

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>① 主に運河水路沿いに展開する森と水のネットワークおよび幹線道路における良質な歩行者空間の整備</li><li>② 安全で快適な自転車道の整備</li></ul> |
|---|

### 水上交通の導入 水上バス

小型船の海上ネットワークの確保

大阪湾に面した立地条件を生かしたベイエリア地域の拠点地区との水上交通ネットワークの構築

表：具体的施策の方向性（例）

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>① アーバンリゾート的な遊覧船や定期的な水上バスの運航</li><li>② 各半島の先端に形成される環境創造の森を結ぶ小型船の海上ネットワークを確保</li><li>③ 大阪湾ベイエリア地域の拠点地区とをネットワークする観光船ルートの導入</li></ul> |
|---|

### 幹線道路網など交通ネットワークの整備

運河水路にて分断される島状の市街地を連携する交通ネットワークの確立

自動車交通の分散、抑制

表：具体的施策の方向性（例）

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>① 北側市街地との連携を強めるための尼崎宝塚線等南北軸の整備</li><li>② 臨海地域における東西軸の連携を強めるため、臨港線の延伸や臨海幹線等東西軸の整備</li></ul> |
|--|

## (5) 21世紀の森の活用による産業遺産等を結ぶネットワークの形成

これまでも述べられてきたように、尼崎臨海地域は阪神工業地帯の一翼を担い、戦後の日本の経済産業の発展をリードしてきた地域であるため、周辺地域には産業施設や建築物等の歴史的価値のある遺産が多数存在する。これらの産業遺産や歴史 文化的遺産、自然生態、環境技術等を保存 展示 体験学習できる場を、森を活用してネットワークすることにより、フィールドミュージアムとしての森の機能と魅力を高めていく。

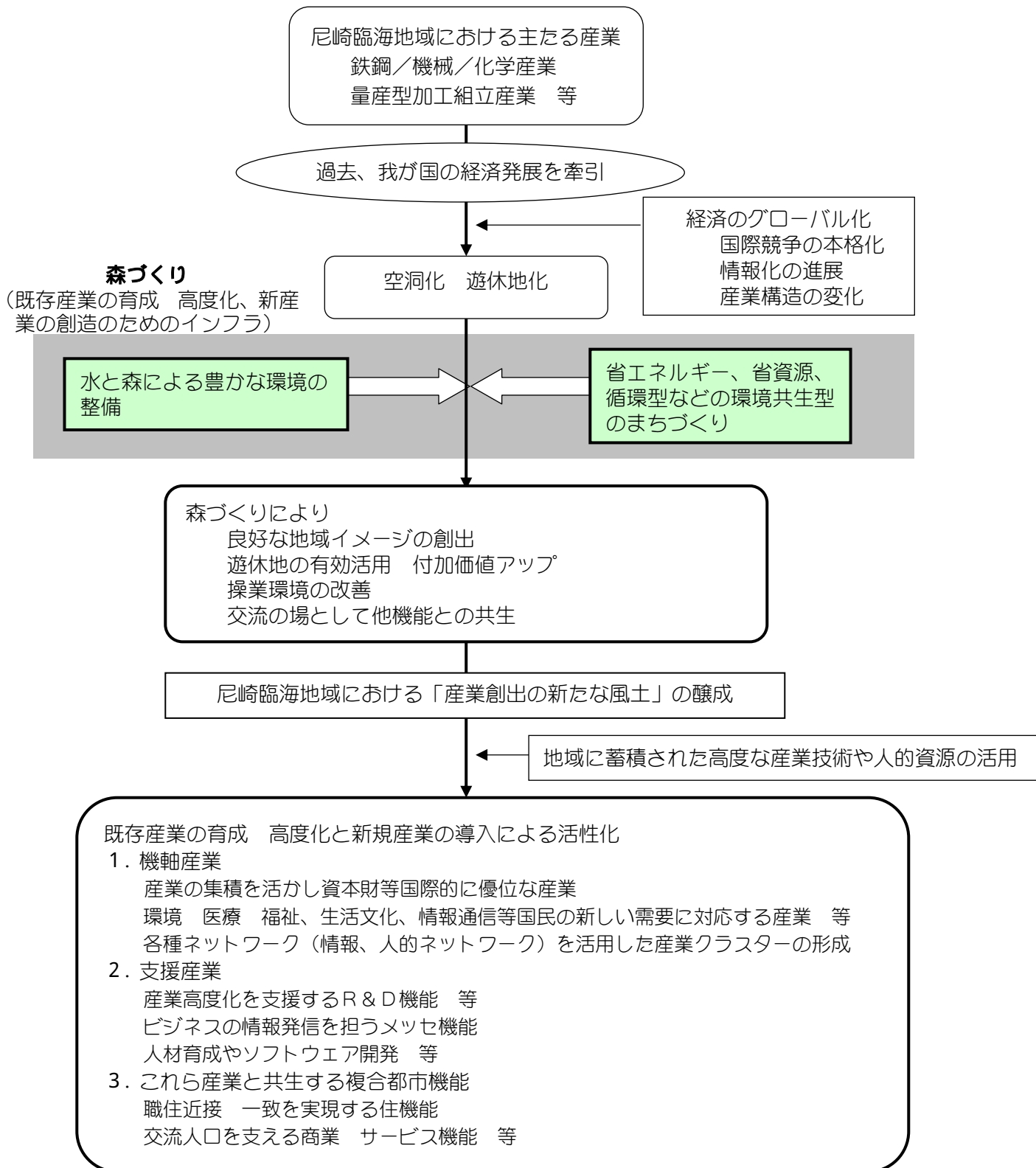
森を活用した産業遺産等を結ぶネットワーク

ゾーン		概 要	ミュージアム資源
都市の森	人が交わる森	環境創造都市のモデルとして、環境共生技術を実践的に展示 学習する。 環境関連技術のモデル展示 自然エネルギー、水循環 リサイクル 省資源化、環境負荷削減 公害防止等の産業遺産を保全 展示し、尼崎産業の歴史を顕彰する。 産業技術遺産の保全 展示 歴史建築物の保全 展示	7-バソコゾ -技術 クボタ(鑄鉄管—18、24、36 寸)
	産業を育む森	都市の森を、尼崎産業技術の歴史的遺産を保全 展示し、歴史を顕彰する場として活用していく。庄下川沿いに近代建築遺産等が最も多く残る城内 寺町地区と連携する。 産業技術遺産の保全 展示 歴史的建築物の保全 展示	住友金属工業の製造設備 (マヌマソ ピアサ、クラックレス、スレツルデューサー、オムコソマ) 旭硝子 (手吹式円筒ガラス、ラバース式円筒ガラス、機械道具類) 尼崎閘門
環境創造の森		自然生態や環境について学習 研究する野外フィールドとする。 自然とのふれあい森 環境学習 研究のコア機能を配置する。 中核施設 管理 情報 交流 保存 展示 教育 研究機能	関西電力 (尼崎第3発電所)

### 4.3 既存産業の育成 高度化と新産業の創造

「森と水と人が共生する環境創造のまち」のためには、既存産業の育成 高度化と新産業の創造は欠くことのできない要素である。森づくりを核とした緑豊かな都市環境を創造することにより良好な地域イメージの創出や操業環境の改善を図り地域ポテンシャルを高め、またこの地域に蓄積された高度な産業技術や人的資源を活かし、既存産業の高度化や新たな産業を導入するとともに研究開発機能等を充実させ地域の産業の活性化を図る。

－尼崎臨海地域における産業活性化に向けて－



#### 4. 4 豊かな人間性を育み、エコライフスタイルを創造するまちづくり

森と水と人が豊かにふれあい共生する環境創造のまちの実現のため「住」「働」「学」「遊」の4つの視点から、将来の生活・活動のイメージを次に示す。



将来の環境創造のまちにおける生活・活動イメージ



住民同士のコミュニケーション



市民参加による森づくり



森の陶芸教室



緑につつまれた産業施設



エコスクールの開催



森のなかのスポーツ施設



森の中でのイベント



まちの賑わい



## 4.5 全ての主体の参画と協働による交流型のまちづくり

### (1) 全ての主体の参画

尼崎21世紀の森構想を推進していく上で、長期的な視点で取り組み、貢献できる全ての主体（市民、企業、民間団体、行政など）が沿岸域を含めた対象地域のまちの再生について共通のイメージを持つことがまず大切である。地域社会、コミュニティーの主人公は市民や企業市民であり、自分たちのまちをどのようにしたいか、どうあるべきかといった考えをしっかりと持ち、行政や他の意向、価値観を尊重しつつ、それぞれが創意工夫をしながら主体的に構想推進に参画することが重要である。このためには、まちの再生イメージを共有し、それを具体化していくためのシステムが必要である。

### (2) 参画と協働に向けた取り組み

#### 森づくり推進のための組織づくり

21世紀の森づくりの実現化を図るため、下図に示すように市民、企業、行政、大学等からなる森構想推進母体を組織する。この組織において、対象地区におけるすべての主体が森構想イメージの共有化を図るとともに、それぞれ創意工夫しながら主体的に計画の具体化を推進する。

#### 市民参加の方法の多様化と反映

上記の推進母体への市民参加のみならず、推進母体によるワークショップの開催、インターネット等の活用による双方向の情報交換等により、市民参加方法を多様化し、より広範囲に市民の意向を把握し、具体的計画に反映させる。また、市民による植樹や管理など森づくりそのものにも直接参加できるような仕組みを検討する。

#### 新ビジネスを育成する企業と大学・研究組織等との新たなパートナーシップの構築

対象地域に立地している企業については、地元で貢献できかつ自らの経営も健全化できるような新ビジネス（たとえば環境、福祉、健康、余暇等を対象）を展開することが重要であり、新ビジネスを育成するため企業と大学や関連する研究機関等との新たなパートナーシップの構築が重要である。

